

## 第13週

質問 33. 私たちも神の子であるのに、なぜキリストを神の「独り子」と呼びますか。

答え I イエスさまだけが永遠から神の御子だからです。<sup>01</sup> 私たちはイエスさまのおかげで、恵みによって神の子、養子となれたのです。<sup>02</sup>

① 神の御子という表現は、キリストと神との関係を指す言葉です。これはまた、キリストは神の本質を持っておられることを指します。つまり、キリストは父と同じ本質を持っておられます（ヨハネ 5:18, 10:30）。キリストを独り子と呼ばれるのは、ただキリストだけが神の御子だということです。従って、私たちは、キリストを神と呼ぶべきであり、仕えなければなりません。キリストに神の御名が帰せられます（ヘブル 1:8-9）。神の属性は、完全と普遍、独立性ですが、キリストにはこのような属性があります（黙 1:8）。

また、神の摂理の御業はキリストにも帰せられ（コロサイ 1:17）、贖いの働きはキリストに帰せられます（ホセア 1:7）。従ってキリストは、まことの神であります。すべての人はキリストを敬い、礼拝すべきです（使徒 7:59）。イエスさまの弟子たちは、キリストを神の子と告白し（マタイ 16:16）、イエスさまも、ご自身を指して、神の子と仰せました（ヨハネ 5:18）。

---

01 ヨハネ 1:1-3, 14, 18, 3:16、ロマ 8:32、ヘブル 1:1、1 ヨハネ 4:9.

02 ヨハネ 1:12、ロマ 8:14-17、ガラテヤ 4:6、エペソ 1:5-6.

② アリアン主義者たちは、キリストが、神によってすべての万物が造られる以前に、被造された存在だと主張しました。しかし、キリストが御子となられるとは、被造されてのことではありません。むしろ、神的な本質を意味しているのです。従ってアリアン主義者たちは異端です（現代主義者たちもキリストの神聖を信じません。ただ、四代聖人の中で一人と数えます）。独り子というのは、仲介者と父なる神との関係において呼ばれる御名です（ロマ8:32）。三位の中で位各の区別から出てきています。それゆえ、キリストが神の御子なのは、父の形の表現です（ヘブル1:3-4）。

③ 神は、私たちが愛し、ご自身の独特な御子をこの地に遣わしてくださいました。だれでも、キリストを信じる者は、滅びることなく永遠の命を持つようになさいました（ヨハネ3:16）。神がご自分の御子を遣わしてくださったのは、私たちに対する愛の証拠であり、私たちはキリストを通して生きていけるようになっていきます（1ヨハネ4:9）。従ってキリストにあっては、神のすべての約束はいくらでも「しかり」であり、「アーメン」です（Ⅱコリント1:20）。

神はキリストにあって、その栄光に富む望みを注いでくださいました（エペソ1:18）。結局、イエス・キリストを信じるというのは、キリストの貴重さを悟って、その恩徳を着せられるために、キリストを信仰によってつかむことを意味します。従って、キリストを信じるためには、キリストに対する知識が必ず必要で、聖霊によってキリストを悟るべき必要性です。

④ キリストを真実に信じる者を、神の子どもと呼びます（ヨハネ1:12、エペソ1:5、ロマ8:16）。キリストは、ご自分を信じる者を神の子どもと呼びました（マルコ3:35、ヨハネ20:17）。私たちが神の子どもと呼ばれるのは、本性によってなったのではなく、恵みによってです。神は、私たちが養子となさったからです。神は、私たちの霊魂の中に聖霊の御業によって信仰を与え、その信仰によってキリストの中に結合されるようになさいました。それで私たちがキリストの生きている肢体となるようにされました。

事実、私たちは御怒りの子たちでした（エペソ2:3）。それにも関わらず、子どもになるようにさせることで、私たちはキリストとまことの交際を持つようになりました。これは、ただ、資格だけを言うのではなく、権利だけを行使する意味でもありません。神は私たちを子としての栄光の状態にいるようにされたのです。これは、聖霊によって御子と結合されることで可能になりました。

従って、神の子どもとして養子縁組されたのは、法的な状態と、聖霊による霊的更新を通して、神と生きている交わりができるようになったという意味です。このようにキリストの肢体となれたのは驚くべきことです。私たちは自らの能力や力によっては神の国に入ることができないからです。私たちの生活が画期的に更新されたということは神の奇跡です。このように、信仰を通して子どもとして受け入れら、実となった私たちは、キリストと共に神の相続を受けようになったのです（ロマ8:17以下）。

## 質問 34. イエスさまを、なぜ「我らの主」と呼ぶのですか。

答え I イエスさまは、金や銀ではなく、ご自身の尊い血<sup>01</sup>によって、私たちをすべての罪から靈魂と体を贖われ、<sup>02</sup>悪魔のすべての力から救ってくださり、私たちをご自身の所有物としてくださった<sup>03</sup>からです。

① 贖いというのは自由にするということです。モーセの律法によれば、時には、貧しさの中で兄弟が奴隷として売られたりします。ところが、その人に裕

---

01 1 ペテロ 1:18-19.

02 1 コリント 6:20、1 テモテ 2:5-6.

03 コロサイ 1:13-14、ヘブル 2:14-15.

福な親族がいれば、その人が代わりに金を支払い、奴隷の状態から自由にする  
ことができます。本性上、私たちは罪の中において皆が罪の奴隷となり、罪の下  
に売られていました。それゆえ、だれかが対価を支払って私たちが救い出され  
てこそ自由になれるのです（ロマ3:12）。しかしキリストがその尊い血によって  
私たちを罪と悪魔の権威から救い、私たちをご自身の所有物としてくださいま  
した。それで私たちはキリストを、主と呼ぶのです。

罪と暗闇の力から抜け出せるのは、決して私たちの力ではできることではあ  
りません。罪が主管する力はあまりにも強力で、そこから抜け出ることができ  
ません。罪が望むままに、私たちの肉体は、罪のことばかり行うようになって  
います。最も、悪魔が散らかす暗闇は、私たちに決して真理を見ることができ  
なくさせ、私たちを続けて闇の中に捕らえ閉じ込めようとします。結局、私た  
ちの霊魂と体は、罪と暗闇から抜け出ることができず、自由も得ることはでき  
ません。ところが、キリストの尊い血が、私たちを罪と暗闇の権威から自由を  
得させてくださいました。それで、私たちはキリストを主と呼びながら、勝利  
の主によって喜び、楽しむのです（イザヤ52:7）。

② キリストはこのように私たちを救い出ただけでなく、救い出した私たち  
をご自身の所有物とされました。主は、私たちを所有物となさり、ご自身を現  
わしておられます。また、私たちはキリストの所有物として、私たちが自分の  
主人ではありません。キリストが私たちの所有権者であるから、私たちは体と  
霊魂によってキリストに栄光を現わすべきで（1コリント6:20）、喜んでその方に  
従順すべきです（マタイ7:21）。そして神の御心に謙遜に服従し（1ペテロ5:6）、  
ただ主だけを仕えるべきです（1コリント7:23、Ⅱペテロ1:8）。

結局、私たち自身を主の働きに捧げるべきです。主の働きに奉仕するのが、  
その所有物として当然の責務です。自分に対して自分自身が主人意識を持つな  
ら、その人は、自分自身が人生の目的と目標になります。結局、自分の望むこ  
とをつかむために人生を全部無駄にしてしまうでしょう。しかし、主の民は、  
主の所有物として自分の目的を追求するのではなく、主が、救ってくださった

目的に従って礼拝と奉仕をするのが一番重要なこととなります (テトス 2:14)。  
ま心に主を愛する心で奉仕をすべきです。

③ キリストは、私たちの主として、私たちを御言葉と聖霊を通して治めておられます。従って、キリストを主と呼ぶ民は、毎瞬間ごとにこのように治めておられる主を認めながらついて行くのです。主の民だと言いながら、自分の思いのままに生きるわけにはいかないです。自分を主の御心に常に服従させなければなりません (ロマ 12:1)。たとえば、アンテオケ教会は、主の声にとっても敏感でした。主の御心が現れた場合は従順することに怠りませんでした (使徒 13:1-2)。

また、私たちがキリストを主と呼びながら従う時、その聖さに複合されるためには努力が必ずあるべきです。その方が私たちが罪と暗闇から救われたのは、私たちによって、その方に似た者となり、キリストを現わそうとする目的のためです (Ⅱコリント 3:18)。最も、その民となれた者たちは、まことの信頼を主に寄せなければならないです。自分を完全に主に屈服させ、穏やかな心を持っているべきです。主を信じ従うと言いながら、相変わらず、自分の賢さや知恵や経験に依存するなら、それは舌だけで主を呼ぶ者に過ぎない、決して主に従っているではありません。私たちが主を完全に頼るなら、状況がどうであれ、その心は平安を保ち、主の介入と、主の保護を、徹底して委ねるべきです (イザヤ 30:1, 31:1)。